

## 意見交換会の概要

- 【参加者】茅ヶ崎市の観光推進として、ホノルル市との姉妹協定と道の駅整備事業は良い事業と思っていた。ところが、道の駅事業費で土盛りや道路整備を行ったにも関わらず、結果として2年延期となってしまった。議会としての見解を問う。
- 【委員】わずか数パーセントの用地買収ができなかった事が要因であり、地権者に行政としてかなりの時間を使い交渉してきたが、行政側の買収に対する見込みが甘かった面もあった。この延期で精査する時間が出来たと捉えている。また、議会としても、整備が東京オリンピックに間に合うようにと思っていたので、残念な結果となってしまった。国土交通省の認可を受けた道の駅の事業であることや、国道134号線の補助金申請が間に合わなかったことも延期した理由である。
- 【参加者】議会だより8ページに特別会計・公営事業会計の病院事業にある「資本5億6,754万円」について、どのように理解すればよいのか。一般的に資本との表記はおかしいのではないか
- 【委員】これは平成29年度決算であるため資本的収入が5億6,754万円であり、資本的支出として10億5,919万円であった。主に、市立病院の別棟建設事業費や医療器材購入等がある。表記については、行政の公営企業会計と一般の企業会計とは異なるためご理解いただきたい。
- 【参加者】高齢化により、茅ヶ崎市は米寿の祝い金を29年度から廃止した。予算がないとの事であるが、議員の報酬をカットしてでも復活できないか。年間500万円くらいは、議員定数削減や政務活動費削減で捻出できると思うがいかがか。
- 【委員】議会としても、この祝い金の削減に対して反対意見があり、身を切る改革は必要と認識している。市は財政難から事業を精査しており、他の事業の廃止もあった。これからも事業の廃止や統合は進める。また、祝い金を削減した分を何に当てたかという点、市内のまちぢから協議会が、地区の中で高齢者への敬老活動に当てたりと工夫をしている。まちぢから協議会が申請した内容を精査して補助金を出しているため、祝い金をその補助金にシフトし、まちぢから協議会でシステム化していこうと考えている。
- 【参加者】事業評価の都市建設分科会の中で、住環境整備事業にある空き家について、市内の今宿、中島、その他でも空き家が多い。老朽化して崩れかかっているアパートや一般住宅が多く見受けられる。一方で新築マンションやアパートが建設されている。地権者の管理の問題もあるが、空き家対策についてどの様になっているか。
- 【委員】国でも空き家特措法に従って持ち主との交渉にあたっている。どんなに老朽化していても個人の財産であるため、慎重に対処する必要がある。また、本市では住まいの相談窓口を設けている。空き家になってしまう理由は様々だが、相続問題、固定資産税の増税、地権者が見つからないことや保守サービスの問題等がある。住まいの相談窓口では、それなりの成果が出ているが、相手があることなので慎重に進めていきたい。

【参加者】 議会だより18ページ「このような理由で賛成しました。反対しました。」について、公明ちがさきの本文二行目の請願に「」の引用内容に誤りがある。次号で訂正して欲しい。また、議会報告会のあり方に問題がある。まず、集まる市民が前回9名、今回も9名であり、これでは開かれた議会ではなく閉ざされた議会を目指しているようだ。意見交換の時間も短縮しており、この実態をどの様に捉えているのか。一例として、北海道の栗山町は町に議員が出向き400名参加し、地域それぞれの意見を議会が吸収している。茅ヶ崎市も以前は地域に出向いて行なっていたが、何に基づいて評価しているのか。自治基本条例に基づいて評価して欲しい。

【委員】 今回いただいたご意見を基に広報広聴委員会において検討し、来年改選後も再検討する。議会報告会・意見交換会の基準については、議会基本条例を基本としている。今後も市民に開かれた議会としていきたい。また、議会基本条例の見直しを2年間かけて実施し、議員定数、議員報酬、政務活動費も検討してきた。近々パブリックコメントを発表するので見て欲しい。様々な議論をして改革に取り組んでいる経過がある。

【参加者】 意見交換会の時間が非常に短い。市長の市民集会ですら3時間行い、市民の意見を2時間は聴く。開かれた議会というが、80分の時間は開かれていると思えない。議会報告会では人件費や債務負担の意見を訴えてきた。議員は支援者と話す機会は多くあるが、そうではない市民との機会は多くない。多様な意見を吸収する時間をとってほしい。

【委員】 議会報告会だけではなく、議員はそれ以外にも市民との意見交換等実施している。市民のさまざまな意見収集を工夫しており、個人で広報もしている。市民の意見の聞き取りが、一時間半で完結するとは考えていない。真摯に理解し改善していく。議会として意見を承ることとする。

【参加者】 市役所仮設庁舎跡地有効活用についてプロポーザルにて実施か。

【委員】 その通りである。

【参加者】 市役所職員が増えている。4年ほど前に、服部市長の話では人件費削減として、各課や部での要求人数ではなくグループ枠として人事検討をすることにより、人件費をおさえて行くと言っていたが、議会としてどのくらい人件費を抑えられたのか。

【委員】 単年度決算の中では効果がわかりにくいだが、働き方改革を実施している。総務常任委員会にて組織改正と人材確保について政策提言するが、総合計画では対応しづらい部分もあり、改善の余地がある。

【参加者】 観光課を設置して欲しい。県内に観光課が無いのは本市だけ。

【委員】 議会として意見を承ることとする。

【参加者】 全国的に公共下水道の管は寿命が来ていると言われているが、茅ヶ崎市はどうか。また電柱地中化についての見通しはどうか。

【委員】 平成29年度決算ベースで、茅ヶ崎市には公共下水管が2,227ヘクタールあり、700ヘクタール広がった。全体の進捗率は71.7%、人口カバー比率は95.6%であり、茅ヶ崎市には雨水汚水合わせて公共下水管が500kmある。老朽化対応として管の中にカメラを挿入してチェックし41.3km行った。交通渋滞にならないよう、

シールド工法にて老朽化対策も行い、計画に沿って整備している。電柱地中化についても少しずつ進めている。

**【参加者】** 議会報告会のあり方について、周知啓発がなっていない。議会だよりに記載があるが、当日までに届いていない家庭もあるかもしれない。意見交換会で意見を言っている時に打ち切られ、言論の自由がない。福祉、障害者支援についても中途半端な回答であった。議会報告会を改善してほしい。まちぢから協議会について服部市長は自治権の侵害にならないように、行政の下請けにすべきと言っていたが、連合会、自治会に加入していない人もいる。また、まちぢから協議会の設立については、市内で1地区設立していないところもあるため、必要な情報も入ってこない。まちぢから協議会の取り組み方について回答がほしい。

**【委員】** 各まちぢから協議会のことは、越権行為になるので詳細は答えられないが、執行部局のコーディネーターがつき、良いまちぢから協議会になるよう支援し、成熟してきている。